

第2章 施設概要の把握

2-1 保全業務に関わる書類の整理

保全業務を円滑かつ適切に実施するためには、個々の施設に関する基本的な事項を把握することが重要です。そのため各様式について、「北海道教育委員会建築物等保全規程の取扱いについて」（平成19年3月23日教施第1205号企画総務部総務政策局長通知（以下、「取扱通知」という。））において定められています。

(1) 保存すべき書類（取扱通知別紙2）

施設管理者は、施設の完成時に図面やその他関係法令書類等の引き渡しを受けます。これらの書類等は当該建築物等の現況を判断する上で欠かせないものです。

施設管理者は、本書式で確認し、施設管理者が財産保存されている書類等を口欄にチェックを入れ、適切な保管に努めてください。

- 保存すべき資料
- ① 完成図
 - ② 施工図
 - ③ 各種申請書及び検査済証等
 - ④ 施工者一覧表
 - ⑤ 建物等の保守に関する証明書
 - ⑥ 各種取扱説明書
 - ⑦ 各種保証書
 - ⑧ 設計内訳書、各種計算書

(2) 施設概要（取扱通知別紙3）

「施設概要書」は、施設の概要を把握するために作成するもので、第3章の長期保全計画の作成、第4章の点検業務につながる重要なものです。2-2節にしたがって対象建築物の概要を記載してください。

施設概要は「完成図（青焼製本）」内の特記仕様書等（完成図、現地の調査を含む。）により作成することができます。

- 「施設概要書」
- ① 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 別紙3-1
 - ② 建築概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 別紙3-2
 - ③ 電気設備概要・・・・・・・・・・・・ 別紙3-3
 - ④ 機械設備概要・・・・・・・・・・・・ 別紙3-4
 - ⑤ 屋外工作物・・・・・・・・・・・・ 別紙3-5
 - ⑥ 修繕工事・改修工事の記録・・ 別紙3-6

(3) その他、作成することが望ましい書式（参考書式）

- ① 官公署届出書類・・・・・・・・参考書式1
当該施設において、提出した官公署届出書類一覧を記載します。法令上の保管業務以外に、改修工事を行う上で提出する届出書類の参考として、また、打合せの必要な関係官公署の把握や点検の法的根拠を知る上で必要となります。
- ② 関係者連絡先一覧・・・・・・・・参考書式2
施設の機能に支障が生じた場合に迅速に対応するため保全業務委託業者、公共機関などの連絡先一覧表を記載します。

2-2 施設概要書の作成について

(1) 施設概要書の位置付け

本書式は、保全規程で定める「長期保全計画の作成」（第3章）及び「点検業務」（第4章）の作業の元になる重要なものです。

ここでは、「取扱通知」に規定されている別紙3の様式の記載方法を解説します。

(2) 必要図書

- ・完成図（青焼製本）
- ・契約に関する書類（保管している場合）

完成図は、建築工事（表題は新築工事又は改築工事）の他、電気設備工事、衛生設備工事、暖房設備工事など、工種ごとに分冊されている場合があります。

(3) 記載方法

ア 別紙3-1 施設概要

敷地状況や建物の棟数及び延床面積などの基本的な事項を整理するためのものです。建物が複数棟ある場合には、建物数に棟数を記入の上、それぞれの合計の面積を記載します。口座番号ごとに別葉としてください。例えば1の施設に2の口座番号が有る場合は別々に作成します。

主として公有財産台帳を基に記入します。

| 記入項目 | 記入方法等 |
|--------|---|
| ①作成年月日 | ・本様式を作成した日付と担当者名を記入します。 なお、日付は最終更新日としてください。 ・チェック者と入力年月日には記入不要です。 |
| ②施設分類 | ・公有財産台帳の「部名（部局名・地方部局名）」を記入します。 |
| ③施設コード | ・公有財産台帳の「部局コード（6行）」＋「口座番号（4行）」を連番で記入します。 |
| ④施設名称 | ・公有財産台帳の口座名を記入します。 |
| ⑤所在地 | ・現在の所在地（住所）を記入します。 |
| ⑥支庁 | ・所在地の支庁名を記入します。 |
| ⑦施設用途 | ・施設の主たる用途について、次から該当するものを選択します。 なお、試験研究機関は「B事務所・庁舎」とします。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">A集合住宅 B事務所・庁舎 D生産・工場 E流通・倉庫 F展示場 G宿泊・寮・研修所 H病院 I学校 J会館・ホール M体育館 O空港 Q図書館・博物館 Rスポーツセンター</div> |

| | |
|------------------|--|
| ⑧施設管理部署 | <ul style="list-style-type: none"> 施設管理者の部署名を記入します。例えば、高等学校であれば施設管理者は学校長となりますので、〇〇高校事務室となります。 |
| ⑨担当者・TEL | <ul style="list-style-type: none"> 施設管理を行っている実務担当者の所属、職、氏名、連絡先を記入します。実際の実務を行っている担当者を記入します。 |
| ⑩都市計画 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳（土地区分）により当該敷地における都市計画の指定状況について記入します。指定変更されている場合もあるので注意してください。 都市計画区域内は「有り」、都市計画区域外は「無し」とし、該当するものを「●」とします。 「有り」の場合には「市街化区域内」、「市街化調整区域内」、「非線引き」（市街化区域及び市街化調整区域の区域区分がされていない場合）の別について該当するものを「●」とします。不明な場合は所在市町の都市計画担当部局に照会してください。 |
| ⑪用途地域 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳を基に、次から該当するものを選択します。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域 工業専用地域 指定無し</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 平成5年度 of 法律改正により用途地域の種類、名称が変更になっていますので、ご注意ください。 都市計画に関する指定は、見直される場合があります。 |
| ⑫敷地面積 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の公簿面積、実測面積をそれぞれ㎡単位で記入します。 |
| ⑬建物数 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳（建物区分）に登録されている建物の棟数を記入します。 |
| ⑭建築面積 延床面積 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳（建物区分）の数量欄には、建築面積（1階床面積）と延床面積（各階床面積の合計）が記載されています。「建築面積」欄には建築面積を、「延床面積」欄には延床面積をそれぞれ記入します。複数棟ある場合には、それぞれ建物棟ごとに合計した数値を記入します。 |
| ⑮許容建ぺい率 許容容積率 | <ul style="list-style-type: none"> 敷地が都市計画区域内の場合には、都市計画法に基づいて許容できる上限の建ぺい率（建築面積の敷地面積に対する割合）、容積率（敷地面積に対する延べ面積の割合）が定められています。 公有財産台帳（土地区分）の「建ぺい率」（%）及び「容積率」（%）が該当しますので、それぞれ記入します。都市計画区域外の場合は該当しませんので記入不要です。 不明な場合は、空欄にしておいてください。 |
| ⑯インフラ | <ul style="list-style-type: none"> 都市ガス、LPGについて、該当するものを「●」とします。 上水道と下水道についても、該当するものを「●」とします。 |

(記載例1) 学校の例

別紙3-1 施設概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|--|
| 作成年月日 | 令和〇〇年〇月〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇〇〇 | ※入力年月日 | |

※施設管理者記入不要

| 区分 | データ (○がある項目は該当する箇所の) | 備考 |
|------------|---|------------------------|
| 施設分類 | △△高等学校 | 更新した場合は、最終更新日を記入。 |
| 施設コード | △△××〇〇□□□□ | |
| 施設名称 | △△高等学校校舎 | 備考 入力しない。 |
| 所在地 | 〒 △△△-××□□ △△市中央1条1丁目1番1号 | |
| 支庁 | △△支庁 | 施設管理者の部署を記入。 |
| 施設用途 | 学校 | 実際の施設管理実務担当者の所属と氏名を記入。 |
| 施設管理部署 | △△高等学校事務室 | |
| 担当者(所属・氏名) | 事務主任 〇〇〇〇 | |
| TEL | 013-51-1111 | |
| 都市計画 | ●有り ○無し | 都市計画区域内のみ |
| 有りの場合 | ●市街化区域内 ○市街化調整区域内 ○非線引き | |
| 用途地域 | 準工業地域 | |
| 敷地面積 | 公簿 56,150.00 m ² 実測 56,150.85 m ² | |
| 建物数 | 8 棟 | 公有財産台帳における建物の棟数を記入。 |
| 建築面積 | 7,626.82 m ² (建坪率 0.13 %) | 計算式が入力されています。 |
| 延床面積 | 18,117.02 m ² (容積率 0.32 %) | |
| 許容建坪率 | 60 % | 都市計画区域内のみ |
| 許容容積率 | 200 % | |
| インフラ | ●都市ガス有り ○LPG ●上水道有り ●下水道有り | |
| 備考 | | |

(記載例 2) 公宅の例

別紙 3-1 施設概要

| | | | |
|-------|-------------|--------|--|
| 作成年月日 | 令和〇〇年〇〇月〇〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任〇〇〇〇 | ※入力年月日 | |

※施設管理者記入不要

| 区分 | データ (○がある項目は該当する箇所の○印を●とする) | | 備考 |
|------------|--------------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 施設分類 | △△高等学校 | | |
| 施設コード | △△××〇〇□□□□ | | |
| 施設名称 | △△高等学校〇〇公宅 | | |
| 所在地 | 〒 △△△-××□□ △市中央1条1丁目1番1号 | | |
| 支庁 | 〇〇支庁 | | |
| 施設用途 | A 集合住宅 | | |
| 施設管理部署 | △△高等学校事務室 | | |
| 担当者(所属・氏名) | △△高等学校事務室 事務主任 〇〇〇〇 | | |
| TEL | 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 | | |
| 都市計画 | ●有り ○無し | | 都市計画区域内のみ |
| | 有りの場合 | ●市街化区域内 ○市街化調整区域内 ○非線引き | |
| 用途地域 | 準工業地域 | | |
| 敷地面積 | 公簿 10,121.30 m ² | 実測 10,121.30 m ² | |
| 建物数 | 5 棟 | | |
| 建築面積 | 1,598.90 m ² | (建坪率 16 %) | 物置20棟 349.92m ² |
| 延床面積 | 5,763.04 m ² | (容積率 57 %) | 受水槽室5棟 121.9m ² |
| 許容建坪率 | 60 % | | 都市計画区域内のみ |
| 許容容積率 | 200 % | | |
| インフラ | ●都市ガス有り ○LPG | | |
| | ●上水道有り ●下水道有り | | |
| 備考 | | | |

イ 別紙3-2 建築概要

本書式は、一つ一つの建物についての面積や構造、外部仕上げなどの概要です。建物ごとに別様としてください。

主として公有財産台帳、完成図（設計図）等を基に記入します。

<建物公有財産データの記入方法>

| 記入項目 | 記入方法等 |
|--------------------|---|
| ①建物コード | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「部局コード（6桁）」＋「口座番号（4桁）」＋「名称（最大3桁）」を連番で記入します。 |
| ②建物名称 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「名称」を記入します。 |
| ③主用途 | <ul style="list-style-type: none"> 建物の主たる用途について、次から該当するものを選択します。試験研究機関は「B事務所・庁舎」とします。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>A集合住宅 B事務所・庁舎 D生産・工場 E流通・倉庫 F展示場 G宿泊・寮・研修所 H病院 I学校 J会館・ホール M体育館 O空港 Q図書館・博物館 Rスポーツセンター</p> </div> |
| ④建物管理部署 担当者・TEL | <ul style="list-style-type: none"> 「別紙3-1」と同じ場合は「施設と同じ」と記入します。 建物管理部署等が施設管理部署等と異なる場合は、建物管理を行っている実務担当者の部署、氏名、連絡先電話番号を記入します。 |
| ⑤竣工日 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「新築年月日」を西暦で記入します。 |
| ⑥耐用年数 (使用予定年数) | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「耐用年数」を記入します。 括弧内は、建物の「新築年＋耐用年数」を西暦で記入します。 |
| ⑦建築面積 延床面積 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の数量欄に、建築面積（1階床面積）と延床面積（各階床面積の合計）が記載されています。「建築面積」欄には建築面積を、「延床面積」欄には延床面積をそれぞれ記入します。 |
| ⑧階数 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「階数」を記入します。 |
| ⑨構造 | <ul style="list-style-type: none"> 公有財産台帳の「構造」を記入します。 建物の構造は、次のいずれかが選択されています。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>・木造 ・木骨モルタル造 ・土蔵造 ・石造 ・れんが造 ・ブロック造 ・コンクリートブロック造 ・コンクリート造 ・鉄骨造 ・鉄筋コンクリート造 ・鉄骨鉄筋コンクリート造</p> </div> |

| | |
|---|---|
| <p>②屋根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属系屋根 ・その他の屋根 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部仕上表の「屋根」欄や断面詳細図、矩形図を基に記入します。 ・使用されている屋根の種類は、特記仕様書の「屋根工事」の項目及び特記事項のチェック項目で確認できます。 <p>カラー鉄板、カラートタン、長尺亜鉛めっき鋼板、ガルバリウム鋼板、折板葺き等 ※括弧内に工法、材質仕様等を記入してください。</p> <p>その他の屋根の場合は、括弧内にその内容を記入してください。</p> |
| <p>③外壁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石貼り ・タイル貼り ・吹付塗装 ・金属系外装材 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部仕上表の「外壁」欄や立面図を基に記入します。 <p>花崗岩貼、大理石貼、カーテンウォールPC製花崗岩貼等</p> <p>レンガタイル貼、小口タイル貼、二丁掛タイル貼、モザイクタイル貼、カーテンウォールPC製二丁掛タイル貼等</p> <p>吹付タイル、複層仕上塗材、合成樹脂エマルジョンペイント塗、塩化ビニル樹脂エナメル塗、アクリル樹脂エナメル塗、水性反応硬化系アクリル樹脂塗、水性合成樹脂エマルジョン塗、マスチック塗材塗、カーテンウォールPC製吹付けタイル、リシン吹付け、コンクリート打放し撥水剤塗布等</p> <p>「アルミ」：アルミ積層複合版、アルミ製カーテンウォール、アルミパネル等 「ガルバリウム鋼板」：カラーガルバリウム鋼板、ガルバリウム鋼板フッ素樹脂塗装等 「ステンレス」：ステンレス製パネル等 「その他」：その他の外壁の場合は、括弧内にその内容を記入。</p> |
| <p>④外部建具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ ・ステンレス ・鋼製 ・その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部仕上表、建具表を基に記入します。 <p>樹脂製、木製などの場合には、「その他」を選択し括弧内にその材質を記入してください。</p> |
| <p>⑤シール</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング、コーキングと呼ばれるゴム状、合成樹脂などの材料です。一般的に、窓枠回りや外壁の目地回りには必ず使用されています。 |
| <p>その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・建物に吹付けアスベストが使用されている場合やPCBを保管している場合には、その旨を記入してください。 |

■特記仕様書

- 建物外部の部材・仕上げについて、屋上防水、屋根の仕様、外壁の仕様などが分かります。

タイル工事

- 防水工事の「1. 種別及び工法」欄に『(ウ) 屋根築造防水絶縁工法 B-1』とあるので、アスファルト防水を選択し括弧内の押えコンクリートありをチェックします。
- 「5. その他の防水」の欄に『屋上緑化用防水 (ルーフガーデン)』とあるので、その他の防水を選択し括弧内のその仕様を記入します。
- シーリング材の各欄にチェックがあり、ガラス廻り、建具周縁などにシーリングがあることが確認できるので、シーリングをチェックします。(通常の場合は必ず使用されています。)

防水工事

屋根工事

- 屋根工事の呼び欄に『カリウム鋼板、4d-文字書添付工法』とあるので、金属系屋根を選択し括弧内にその仕様を記入します。

特記仕様書

■外部仕上表

- 建物外部の部材・仕上げについて、屋上防水・屋根、外壁、建具の仕様などが分かります。

屋根

外壁

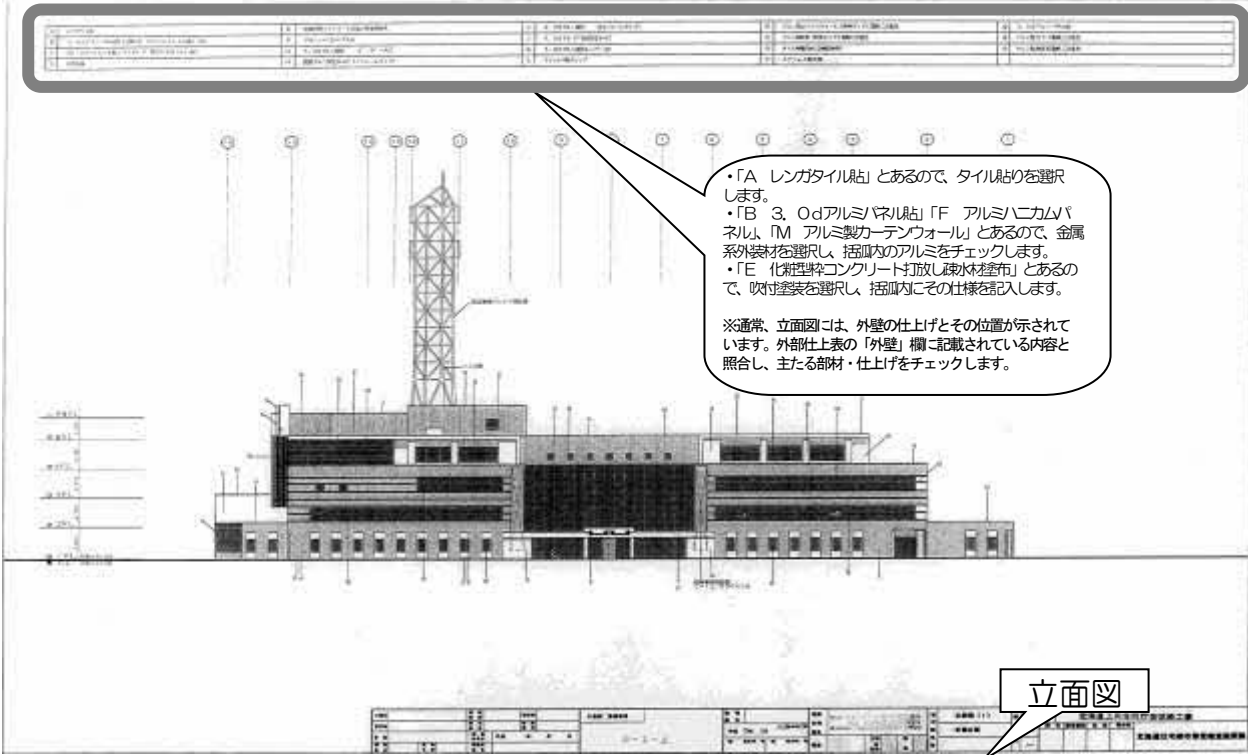
建具

外部仕上表

- 「一般平面 アスファルト防水 (B-1)、砂利まき保護工法」とありますが、特記仕様書の「屋根工事」欄に、『屋上保護防水絶縁工法』とあるので、「押えコンクリートあり」を選択します。
- 「ルーフガーデン 屋上緑化用防水」はその他の屋根とし括弧内にその仕様を記入します。
- 「キャンビー アルミパネル」は金属系屋根を選択し括弧内にその仕様を記入します。
- 「一般外壁 (1F~3F) レンガタイル貼」とあるので、タイル貼りを選択します。
- 「中層別収4F、PHF アルミパネル、一部アルミスンドレル」金属系外装材を選択し、括弧内のアルミをチェックします。
- 「外壁一部 コンクリート打放し仕上の上棟材塗布」とあるので、吹付塗装を選択し、括弧内にその仕様を記入します。
- 「アルミ製建具」、「ステンレス製建具」、「スチール製建具」が使用されているので、アルミ、ステンレス、鋼製をチェックします。

■立面図

- 建物外部の部材・仕上げについて、外壁の仕様が分かります。



(記載例)

別紙3-2 建築概要

| | | | |
|-----|---------|--------|--|
| 作成日 | 〇〇年〇月〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任〇〇〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理者記入不要

| 区分 | データ | | |
|--------------------|--------------------------|-----------|-------|
| 建物コード | △△××□□□□〇〇 | | |
| 建物名称 | 北海道△△高等学校校舎 | | |
| 主用途 | 学校校舎(教室棟1) | | |
| 建物管理部署 | 施設と同じ | | |
| 担当者 | 施設と同じ | | |
| TEL | 施設と同じ | | |
| 竣工日 | 1999年 | 9月 | 13日 |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 50年 | (2049年まで) | |
| 建築面積 | 5,746.90 m ² | | |
| 延床面積 | 16,237.10 m ² | | |
| 階数 | 地上 4階 | 地下 1階 | 塔屋 1階 |
| 構造 | 鉄筋コンクリート造 | | |

公有財産台帳の「名称」を記入します。

公有財産台帳の「部局コード(6桁)」+「口座番号(4桁)」+「名称(最大3桁)」を連番で記入します。

通常は、「3-1 施設概要」と同じですので、施設と同じと記入します。(異なる場合は、担当者名等を記入してください。)

最も適切な用途を選択して記入します。(※公有財産台帳の「種目」ではありません。)

公有財産台帳の「新築年月日」を西暦換算して記入します。

新築年に耐用年数を加算して西暦に換算して記入します。

公有財産台帳の数量欄の建面積を記入します。

公有財産台帳の「耐用年数」を記入します。

公有財産台帳の数量欄の延面積を記入します。

公有財産台帳の「階数」を記入します。

公有財産台帳の「構造」を記入します。

| 区分 | 外部の部材・仕上げ | | 備考 |
|---|-----------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 中分類 | 中分類 | (該当する部材・仕上げの〇に●をマーク) | |
| 外部 | 屋上防水 | ●アスファルト防水(押えコンクリート ●あり ○なし) | 最上部が屋上であれば防水方式を、屋根であれば屋根の材質を記載。 |
| | | ○シート防水 ○塗膜防水(○ウレタン ○ゴムアスファルト) | |
| | | ○ステンレス防水 ●その他防水(屋上緑化用防水) | |
| | 屋根 | ●金属系屋根(アルミ、ガルバリウム鋼板) ○その他屋根() | |
| | 外壁 | ○石貼り ●タイル貼り ●吹付塗装(コンクリート打放し撥水材塗布) | |
| ●金属系外装材(●アルミ ○ガルバリウム鋼板 ○ステンレス) ○その他() | | | |
| 外部建具 | ●アルミ ●ステンレス ●鋼製 | 外部に面した建具の材質を記載。 | |
| | ○その他() | | |
| シール | ●シール | | |

※1 アスベストがある場合には、アスベスト台帳を整理し、「アスベスト台帳整理済」と記入してください。
 ※2 PCBを保管している場合には、「PCBを〇〇室に保管」と記入してください。

建物の完成図(設計図面)等を基に該当する部材を記入します。その他の場合は括弧内にその仕様を記入します。

その他

| | |
|----------|--|
| | <p>「高圧（特高）ケーブル」：高圧受電以上の場合に使用 「高圧気中負荷開閉器」：高圧受電施設の引き込み柱に設置 ※電力会社の所有の場合がある</p> <p>受電方式によらず敷地内に2棟以上の建物があり電力供給会社からの電源の引込が1ヶ所の場合は次のとおり記入してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 最初に電源を引込んでいる棟の備考欄に、この棟から電源を供給している他の棟名を記入する。 2) 電源供給されている棟には、電源を供給している棟名が判るよう備考欄に記入する。 3) 電源供給されている棟の供給電圧が、低圧の場合は「●低圧受電」とし、高圧の場合は「●高圧受電」とし、設備機器が設置されている場合は記入する。 4) 屋外用キュービクル式配電盤等で高圧受電している場合は、主として電源を供給している1つの棟にのみ設備機器を記入する。 5) 当該配電盤等から電源を供給されている他の棟は、この棟への供給電圧が低圧の場合は「●低圧受電」とし、高圧の場合は「●高圧受電」とし、設備機器が設置されている場合は記入する。備考欄には「屋外キュービクルから供給」と記入する。 |
| ②発電設備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電機の使用種別について次から選択します。 「非常用発電機」：建築基準法、消防法等の規定で設置 「常用発電機」：電力会社の系統から給電が得られない場合等に設置 「コージェネ」：コージェネレーションの略で、内燃機関等で発電し、排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、総合エネルギー効率を高めるもの ・ 発電設備のエンジンの種類を記入します。 「ディーゼルエンジン」：使用燃料は一般的に軽油又はA重油 「ガスタービン」：使用燃料は灯油、軽油、重油、燃料ガス等 「ガスエンジン」：使用燃料は一般的に天然ガス ・ 発電される電気種別を次から選択します。 「単相2線式」：通常は電灯回路等の100V又は200Vを出力 「単相3線式」：通常は電灯回路等の100V、200Vを出力 「3相3線式」：通常は動力回路の200V、6,600Vを出力 |
| ③直流電源 | <p>直流電源装置は、主に非常用照明及び受変電機器制御電源に使用され、蓄電池（バッテリー）と充電器等の整流器部から構成されています。</p> <p>工事特記仕様書及び直流電源設備（静止型電源設備）の機器仕様図等に詳細が記載されています。</p> |
| ④UPS設備 | <p>UPS設備（無停電電源装置）を設置した、無停電システムの回路がある施設は、UPS装置等の仕様を記入してください。</p> <p>なお、CVCF装置（定電圧定周波数装置）はUPS装置へ含めませんが、サーバー等の附属機器であるUPSは対象外とします。</p> |
| ⑤その他補助電源 | <p>新エネルギー等の発電設備を整備している施設は、種別及び仕様等を記入します。</p> |

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>⑥電灯設備</p> | <p>施設に使用している主な照明器具及び点灯制御方式の種別を記入します。</p> <p>「F L 蛍光灯」：従来型蛍光灯</p> <p>「H f 蛍光灯」：高周波点灯方式（インバータ式）の蛍光灯で、蛍光管にH f と記されている 従来型と区分し高効率蛍光灯とも言う</p> <p>「H I D」：放電ランプ（水銀灯、ナトリウム灯等）</p> <p>「L E D」：発光ダイオード照明</p> <p>「リモコン」：分電盤内に照明回路ごとの点滅制御器を設置し、複数の箇所点滅可能</p> <p>「照明制御」：設定した点灯範囲等のパターン及び時間等のスケジュールをプログラムした点滅の一括制御</p> <p>「昼光利用」：明るさセンサが感知した明るさに応じて調光</p> |
| <p>⑦その他</p> | <p>「避雷設備」：避雷針等の有無を記入</p> <p>「フローヒーティング」：屋内の床暖房設備等の有無を記入</p> <p>「ロードヒーティング」：屋外駐車場等の融雪設備の有無を記入</p> |
| <p>○情報通信設備</p> <p>①電話設備</p> | <p>電話交換装置の種別を記入します。</p> <p>「ボタン電話装置」：一般的に小規模施設の電話交換機に使用</p> <p>「電子交換機」：デジタルPBX、IP-PBX、VoIPサーバ</p> |
| <p>②テレビ</p> | <p>アンテナの種別、視聴する放送種別を記入します。</p> <p>「UHF」：地上デジタル放送</p> <p>「BS/CS」：衛星放送</p> <p>「CATV」：有線放送（ケーブルテレビ）</p> |
| <p>③放送設備</p> | <p>放送の区分及び増幅器の容量を記入します。</p> <p>「非常放送」：消防法等の規定による放送設備</p> <p>「一般放送」：非常放送設備を通常使用の場合は両方選択</p> |
| <p>④その他</p> | <p>次に該当する電気設備の設置状況について記入します。</p> <p>「中央監視装置」：各設備の制御、監視、計測等の情報を遠方に集中して表示、制御等できるもの</p> <p>「駐車場管制」：管制盤、検知器、信号灯・警報灯、発券機、カーゲート、カードリーダーより構成され、車の入庫、出庫、警報表示、管理制御等を行うもの</p> <p>「表示設備」：出退表示器、マルチサイン装置(表示操作部、情報表示盤等から構成され文字、画像を表示するもの)</p> <p>電気時計設備を含まない。</p> <p>「誘導支援装置」：高齢者、身体障害者等が施設を利用する際、音声等により案内・誘導、施設管理者への連絡・通報を行うもの(身体障害者用インターホン、トイレ等呼出し装置を含む)</p> <p>「インターホン」：身体障害者用インターホン、トイレ等呼出し装置を除くインターホン、テレビインターホン</p> <p>「入退出管理」：制御装置、認識部等により構成され、管理区域</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>内への入退出を制限及び管理するもの</p> <p>「電気時計」：親時計、電源装置、子時計で構成され、時刻を表示するもの</p> <p>「LAN」：スイッチ、ルータ等の機能を有する機器、インターフェース等により構成し、端末との接続又は構内情報通信網装置を相互に接続するもの</p> <p>「映像・音響」：増幅器、スピーカ、プロジェクタ、スクリーン、その他の機器(マイクロホン、各種レコーダー、カラーテレビ。カラーモニタ等)により構成し、録画・録音・再生等が行えるもの</p> <p>「ナースコール」：緊急時の呼出し、患者と医療スタッフ間の意思疎通を行うための装置で、親機、副親機、子機等により構成するもの</p> <p>「機械警備」：センサ、制御装置により構成され、敷地外からの侵入又は建物内への侵入を機械的に検出し、遠隔監視等を行うもの（防犯設備）</p> <p>「監視カメラ」：カメラ、モニタ装置、録画装置その他の機器により構成し、建物内外の監視を行うもの</p> |
| <p>○防災</p> <p>①自火報設備</p> | <p>受信機の型（○総合複合盤、又は○壁掛け型）を選択し、「工事特記仕様書」の「火災報知機設備仕様書」により、中継器・感知器の有無を確認の上選択し、回線数を記入してください（取扱説明書や機器完成図を参照してください。）。</p> |
| <p>②その他</p> | <p>「工事特記仕様書」の「自動閉鎖設備」の項目で、「自動閉鎖装置（防火戸、防火扉、防火シャッター）の有無を確認します。</p> <p>また、「電灯設備図（誘導灯・非常灯）」により、誘導路灯、非常照明のそれぞれについて有無を確認します。</p> <p>なお、消防設備保守点検業者の報告書で、概要を確認できます。</p> |

■工事特記仕様書(図A)

・様々な工事の仕様が記載されています。なお、通常、工事区分ごとに複数枚に分けて記載されています。

電気設備その3 工事特記仕様書

受変電設備

静止形電源設備

拡声設備

避雷設備

放送設備における非常放送の有無を確認「消防法による非常警報装置と●する。」

「直流電源装置」の欄に「鉛蓄電池」とあるので「直流電源」があることを示す。
「交流無停電電源装置」の欄が「据置型」とあるので「UPS設備」があることを示す。

避雷設備があるので●避雷設備とする。

■工事特記仕様書(図B)

電気設備その2 工事特記仕様書

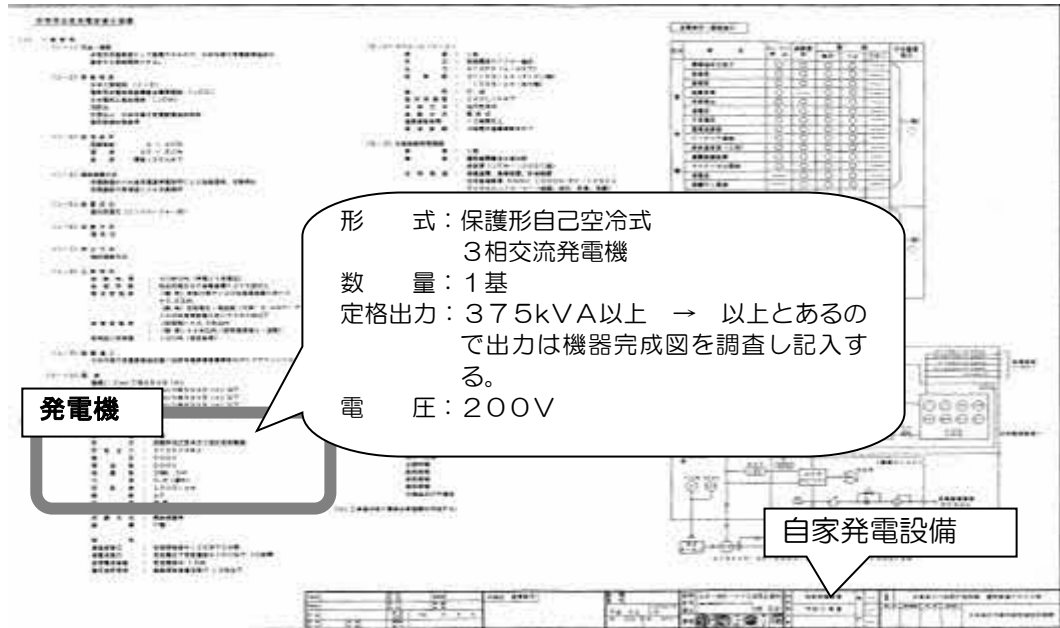
工事種目

自家発電設備

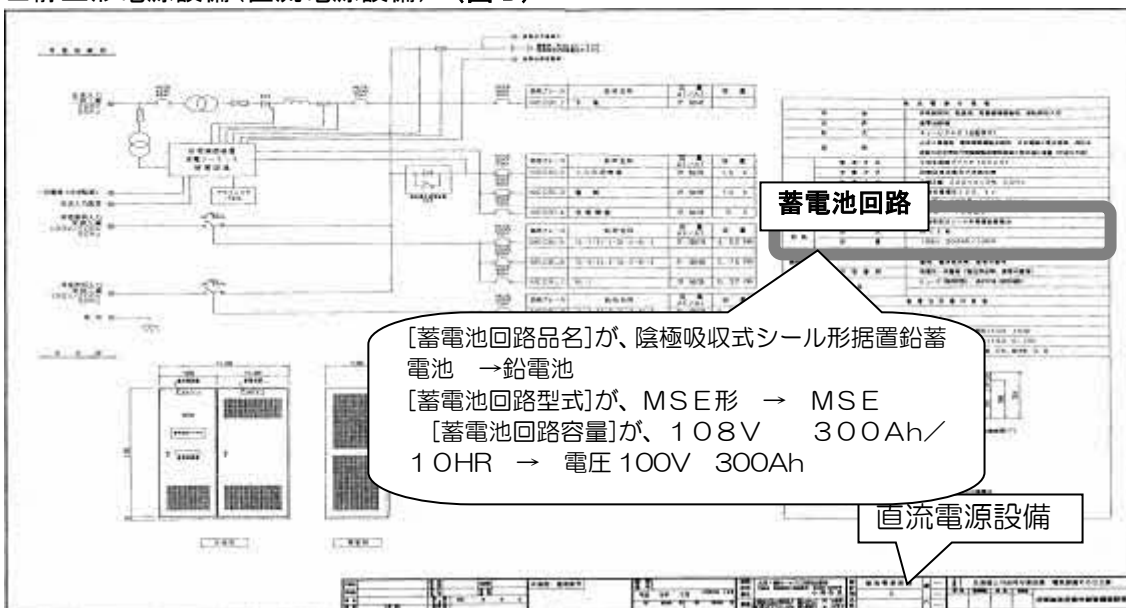
「原動機」が、ガスタービンとあるので、選択。

情報通信設備の「その他」の欄関係
 ・インターホン設備 → インターホン
 ・電気時計設備 → 電気時計
 ・表示設備 → 表示設備
 ・構内LAN設備 → LAN
 の有無が確認できます。
 そのほかは、調査ください。

■自家発電設備図(図C)



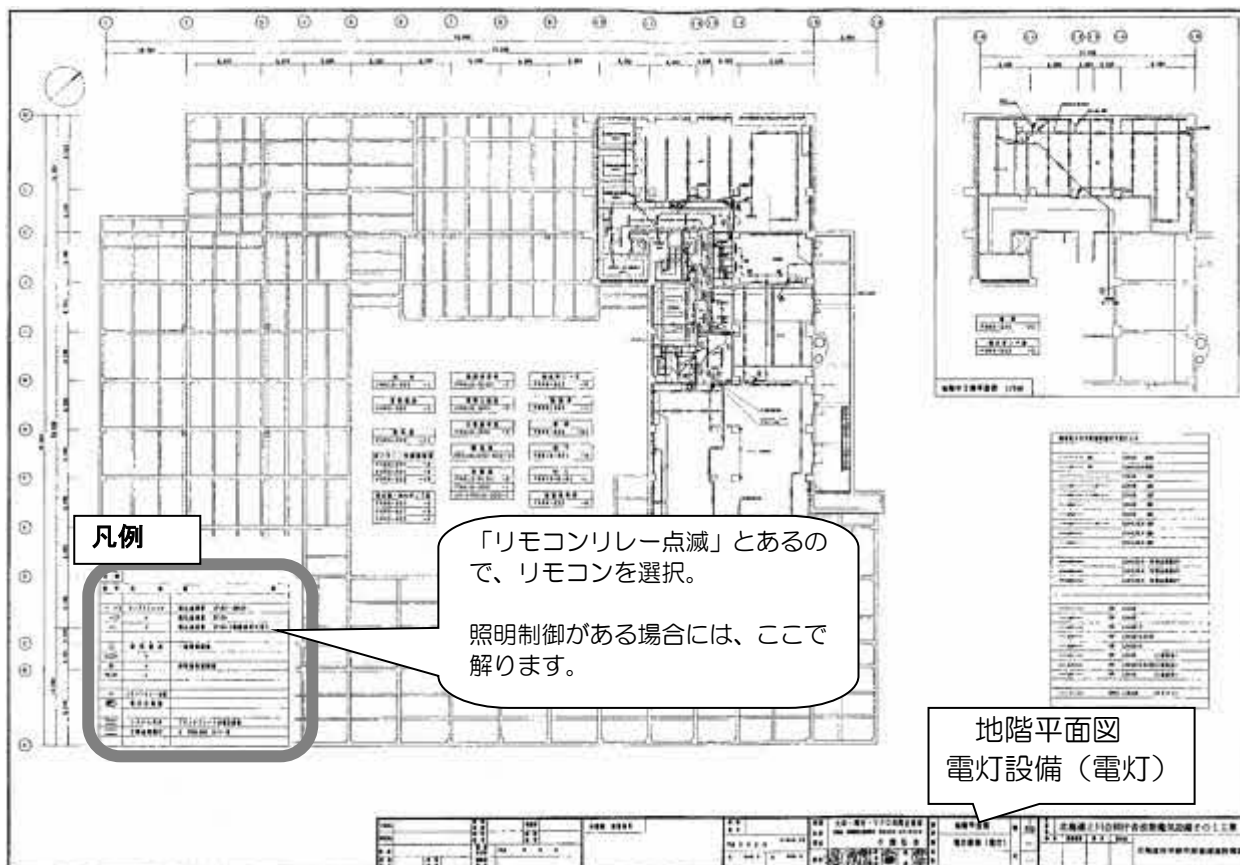
■静止形電源設備(直流電源設備) (図D)



■静止形電源設備(図E)



■平面図 電灯設備(図F)



■弱電機器姿図(機器仕様、姿図)(図G)



■工事特記仕様書(図H)

電気設備その1 工事特記仕様書



■火災報知設備仕様書(図I)



(記載例)

別紙3-3 電気設備概要 (電力、情報通信、防災)

| | | | |
|-----|---------|--------|--|
| 作成日 | 〇〇年〇月〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任〇〇〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理者記入不要

| | |
|-------|----------------------------|
| 建物コード | △△××□□□□〇〇1 |
| 建物名称 | 北海道△△高等学校校舎棟 (教室棟 1, 2, 3) |

| 区分 | | 部材及び仕様等 | 備考 |
|--------|---------|---|-------|
| 中分類 | 小分類 | (該当する項目は、○印を塗りつぶして●印にする。また機器の台数、仕様を記入する。) | |
| 電力設備 | 受変電設備 | <input type="radio"/> 低圧受電 (<input type="radio"/> 一般 <input type="radio"/> 動力) <input type="radio"/> 特別高圧受電 ● 高圧受電 <input type="radio"/> 高圧気中負荷開閉器 <input type="radio"/> 屋外キュービクル ● 屋内キュービクル ● 開放型受電設備 <input checked="" type="radio"/> 乾式変圧器 <input type="radio"/> 油入変圧器 ● 高圧進相コンデンサ <input checked="" type="radio"/> 高圧直列リアクトル ● 高圧(特高)ケーブル 高圧電灯変圧器 合計台数 <input type="text" value="2"/> 台 合計容量 <input type="text" value="650"/> KVA 高圧動力変圧器 合計台数 <input type="text" value="2"/> 台 合計容量 <input type="text" value="750"/> KVA 特高変圧器 合計台数 <input type="text" value=""/> 台 合計容量 <input type="text" value=""/> KVA | 計画対象外 |
| | 発電設備 | ● 非常用発電機 <input type="radio"/> 常用発電機 <input type="radio"/> コージェネ ● ディーゼルエンジン <input type="radio"/> ガスタービン <input type="radio"/> ガスエンジン <input type="radio"/> 単相2線式 <input type="radio"/> 単相3線式 ● 3相 電圧 <input type="text" value="200"/> V 合計台数 <input type="text" value="1"/> 台 合計容量 <input type="text" value="375"/> KVA | |
| | 直流電源 | ● 鉛電池 (<input type="radio"/> HSE ● MSE) <input type="radio"/> アルカリ電池 電圧 <input type="text" value="108"/> V 容量 <input type="text" value="300"/> AH 合計台数 <input type="text" value="1"/> 台 | |
| | UPS設備 | ● 単相2線式 <input type="radio"/> 単相3線式 <input type="radio"/> 3相 電圧 <input type="text" value="100"/> V 合計台数 <input type="text" value="1"/> 台 合計容量 <input type="text" value="5"/> KVA | |
| | その他補助電源 | <input type="radio"/> 太陽光発電 <input type="radio"/> 燃料電池 <input type="radio"/> 風力発電 <input type="radio"/> 小水力発電 <input type="radio"/> その他 () <input type="radio"/> 単相2線式 <input type="radio"/> 単相3線式 <input type="radio"/> 3相 電圧 <input type="text" value=""/> V 合計台数 <input type="text" value=""/> 台 合計容量 <input type="text" value=""/> KVA | |
| | 電灯設備 | ● FL蛍光灯 ● Hf蛍光灯 <input type="radio"/> HID <input type="radio"/> OLED ● リモコン <input type="radio"/> 照明制御 <input type="radio"/> 屋光利用 | |
| | その他 | ● 避雷設備 <input type="radio"/> フロアヒーティング <input type="radio"/> ロードヒーティング | 計画対象外 |
| 情報通信設備 | 電話設備 | ● ボタン電話主装置 <input type="radio"/> 電子交換機 局線数 <input type="text" value="10"/> 回線 内線数 <input type="text" value="40"/> 回線 | |
| | テレビ | ● VHF/UHF ● BS/CS <input type="radio"/> CATV <input type="radio"/> 地上波デジタル | 計画対象外 |
| | 放送設備 | ● 非常放送 ● 一般放送 増幅器(非常放送用) 出力 <input type="text" value="600"/> W | 計画対象外 |
| | その他 | <input type="radio"/> 中央監視装置 <input type="radio"/> 駐車場管制 ● 表示設備 <input type="radio"/> 誘導支援装置 ● インターホン ● 入退出管理 ● 電気時計 ● LAN ● 映像・音響 <input type="radio"/> ナースコール <input type="radio"/> 機械警備 <input type="radio"/> 監視カメラ | 計画対象外 |
| 防災 | 自火報設備 | ● 受信機 (● 総合複合盤 <input type="radio"/> 壁掛け型) 受信機回線数 <input type="text" value="280"/> 回線 ● 中継器 ● 感知器 | |
| | その他 | ● 自動閉鎖装置(防火戸) ● 誘導路灯 <input type="radio"/> 非常照明 | |

※ 計画対象外については、長期保全計画対象外の項目ですが、施設の概要を把握するために記入する項目です。

エ 別紙3-4 機械設備概要

本書式は、機械設備についての概要を整理するためのものです。建物が複数棟ある場合には、建物ごとに別様としてください。

機械設備は、「暖房設備」、「冷暖房設備」、「空気調和設備」、「衛生設備」、「給排水設備」及び「暖房衛生設備」などの工事名になっています。いずれもこれらの完成図の「特記仕様書」及び「機器表（又は機器一覧表）」を参照して、必要項目を記入（選択）してください。

機器表などで分からない場合は、設置されている機器の銘板を直接確認してください。

| 記入項目 | 記入方法等 |
|---|--|
| <p>○冷暖房設備</p> <p>①冷暖房熱源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱源 1～7 | <p>施設のボイラー室及び機械室に設置されていますので、完成図の「機器一覧表（冷暖房）」（図A）を参照し、それぞれの名称、暖房能力、冷房能力、使用主燃料について、次から該当するものを選択します。</p> <p>該当するものがない場合は、そのまま名称等のデータを記入してください。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「名称」</p> <p>暖房系：貫流ボイラー、鋼製立形ボイラー、炉筒煙管ボイラー、 鋳鉄製蒸気ボイラー、鋳鉄製温水ボイラー、 鋳鉄製無圧式温水発生機、鋼製無圧式温水発生機、 鋳鉄製真空式温水発生機、鋼製真空式温水発生機</p> <p>冷房系：スクリー冷却機、遠心冷却機、吸収式冷却機、 空冷式チリングユニット、水冷式チリングユニット</p> <p>冷暖房系：吸収式冷温水機、空気熱源ヒートポンプユニット※1</p> <p>「暖房能力」</p> <p>数値及び単位（kcal/h、kW、USRT、HP）を記入</p> <p>「冷房能力」</p> <p>数値及び単位（kcal/h、kW、USRT、HP）を記入</p> <p>「燃料」</p> <p>A重油、灯油、都市ガス※2（12A、6Cなど）、LPガス、 蒸気温水（地域熱供給事業による）、電気</p> <p>※1 空気熱源ヒートポンプユニットの暖房並びに冷房能力は室外機の数値を記載してください。 また、空気熱源ヒートポンプユニットが複数台ある場合、暖房並びに冷房能力は合計した数値を記載するものとし、室外機の台数を備考欄に記入してください。 なお、他の熱源機器について、台数が2基以上の場合は、1基ごと選択し記載してください。</p> <p>※2 主燃料が都市ガスの場合は、ガスの種別も併せて記載してください。</p> <p>※3 給湯機能を併せ持つ場合は、名称、暖房能力等のほか、備考欄に「給湯暖房2回路」と記載するとともに、衛生設備の「給湯熱源」に名称及び給湯能力について記載してください。</p> </div> |
| <p>②冷暖房熱源付属機器</p> | <p>施設のボイラー室及び機械室に設置されていますので、主熱源機器を除いた機器を完成図の「機器一覧表（冷暖房）」（図B）を参照し、該当するものを全て選択してください。</p> <p>オイルタンクの種類を選択し、そのタンク容量を記入してください。</p> <p>機械設備概要に掲載されていない機器は、その他の欄に名称を記載してください。</p> |

| | |
|------------------------------------|--|
| ③空調 | <p>空気調和機器として、各室ごとに設置している機器を、完成図の「機器一覧表（空調）」（図C）や図面内の機器仕様を参照し、該当するものを全て選択してください。</p> <p>確認ができない場合は、直接、設置機器の銘板を確認してください。</p> <p>機械設備概要の様式に掲載されていない機器は、その他の欄に名称を記載してください。</p> |
| ④暖房 | <p>暖房機器として、各室ごとに設置している機器を「特記仕様書（冷暖房）」（図D）や「機器一覧表（冷暖房）」又は、図面内の機器仕様を参照し、該当するものを全て選択してください。</p> <p>確認ができない場合は、直接、設置されている機器の銘板を確認してください。</p> <p>機械設備概要の様式に掲載されていない機器は、その他の欄に名称を記載してください。</p> |
| ⑤換気 | <p>「機器一覧表（空調）」（図F、図G）により、ボイラー室や空調機械室に設置している外調機、送排風機（シロッコファン、軸流送風機など）と各室単位で設置している天井扇、壁換気扇、熱交換型換気扇（空調換気扇、ロスナイなど）について、該当するものを全て選択してください。</p> <p>機械設備概要の様式に掲載されていない機器は、その他の欄に名称を記載してください。</p> |
| ⑥排煙 | <p>「機器一覧表（空調）」（図G）により、排煙ファンやダクトが設置されている施設は、機械排煙ファンを選択してください。設置がなければ自然排煙を選択してください。</p> |
| ⑦自動制御 | <p>「特記仕様書」（図E）及び「自動制御図面」を参照し、自動制御盤、中央監視盤を選択してください。</p> <p>図面上で分かりづらいものについては、ボイラー室監視室内や空調機械室にて確認してください。</p> |
| ⑧冷暖房配管 | <p>「特記仕様書」（図D）より該当するものについて選択してください。</p> |
| <p>○衛生設備</p> <p>①給水</p> <p>・方式</p> | <p>給水の方式、水源及び機器について、「特記仕様書（衛生）」（図H）や「機器一覧表（衛生）」（図I）を参照し、また施設の現状を確認して選択してください。</p> <p>「直圧式」：水道管の水圧だけで必要箇所に直接水を送る水道直結方式。住宅や2～3階程度の小規模な建物に採用。</p> <p>「直結加圧式」：水道管に増圧給水装置を取り付けたポンプ直送方式。主に3階以上の中高層の建物に採用。</p> <p>「加圧給水ポンプ式」：水道水を受水槽に貯水し、加圧給水ポンプユニット（インバーター方式）において給水する受水槽方式。中規模な建物や学校等に採用。</p> <p>「圧力水槽式」：水道水を受水槽に貯水してから圧力タンクにより加圧する圧力タンク方式。中規模な建物や学校等に採用。</p> <p>「高置水槽式」：受水槽から高架水槽に給水ポンプで揚水し重力</p> |

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 水源 • 機器 | <p>により給水する高置タンク方式。主に大規模な施設で採用。</p> <p>「水道水」：市町村等の水道事業によるもの。特記仕様書では上水と記載。</p> <p>「井水」：敷地内の井戸から揚水し、利用しているもの。</p> <p>「加圧給水ポンプユニット」：加圧給水ポンプ式に使用されている。</p> <p>「直結ブースターポンプ」：直結加圧式に使用されている。</p> <p>「揚水ポンプ」：高置水槽式に使用されている。</p> <p>「水槽総合容量」：施設に設置されている水槽総量を記入する。</p> |
| <p>②給湯</p> <ul style="list-style-type: none"> • 方式 • 熱源 1～2 | <p>該当する給湯方式を全て選択してください。</p> <p>「個別」：各所で湯沸器を使用して給湯しているもの。</p> <p>「中央」：給湯ボイラー、熱交換器類により各所に配管で給湯しているもの。</p> <p>「中央」に該当する場合、給湯熱源が施設のボイラー室及び機械室に設置されているので、「機器一覧表（衛生）」（図 I）を参照し、次の「熱源 1～2」について記載してください。</p> <p>台数が 2 基以上の場合は、1 基ごと選択し記載してください。</p> <p>「名称」：給湯ボイラー、鋼製無圧式温水機、鋼製真空式温水機</p> <p>「能力」：数値を記入</p> <p>「単位」：kcal/h、kW</p> <p>「燃料」：A 重油、灯油、都市ガス、LP ガス、蒸気温水（地域熱供給事業による）、電気</p> <p>「備考」：暖房機能を併せ持つ場合は、「給湯暖房 2 回路」と記入。※冷暖房設備の「冷暖房熱源」に名称及び暖房能力を記入。</p> |
| <p>③給湯熱源付属機器</p> | <p>施設のボイラー室及び機械室に設置されています。「機器一覧表（衛生）」（図 I）により該当するものをすべて選択してください。</p> |
| <p>④排水</p> <ul style="list-style-type: none"> • 方式 • 機器 | <p>排水処理方式を下水道、浄化槽、くみ取りの中から選択してください。</p> <p>排水機器について、「特記仕様書（衛生）」（図 H）や「機器一覧表（衛生）」（図 I）から、該当するものを全て選択してください。</p> |
| <p>⑤消火</p> | <p>「特記仕様書（衛生）」（図 H）や「機器一覧表（衛生）」（図 I）から施設の消火設備の種類を選択し、記載してください。</p> |
| <p>⑥特殊</p> | <p>「医療ガス設備」：病院や検査機関などで使われている場合に該当します。</p> <p>「厨房設備」：寮、庁舎などの複数の職員等や不特定多数の来庁者へ食事を提供するための業務用の設備がある場合に、「特記仕様書（衛生）」により選択してください。</p> |

| | |
|-----------------------------|--|
| ⑦衛生配管 | 「特記仕様書（衛生）」より該当するものについて全て選択してください。 |
| ○搬送設備 ①昇降機 ・ type-A～D | 設置工事完成図より記載してください。 なお、搬送設備（エレベーター等）の工事は、単独の工事の場合と建築工事に含まれる場合がありますので注意してください。 昇降機は、同型タイプごとに「type-A」から順に記入してください。 「用途」：乗用、非常用、人荷用 「仕様」：ロープ式、油圧式 「機械室」：有無を記入 「台数」：台数を記入 |
| ②その他 | 「エスカレータ」：設置台数を記入 「小荷物専用搬送機」：設置台数を記入 |
| ③駐車 | 「機械駐車」：自動車の収容台数を記入 |

■機器一覧表（冷暖房）（図A） ～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。

冷暖房熱源機器

冷暖房熱源付属機器

冷却塔

吸収式冷温水機

機器一覧表（冷暖房）

冷暖房熱源付属機器より「冷却塔」を選択

・名称～「吸収式冷温水機」、
暖房能力～「1,225,000 kcal」、
冷房能力～「360 USRT」、
燃料～「都市ガス 6C」を記載。

・2基あるのでそれぞれ分けて記載。

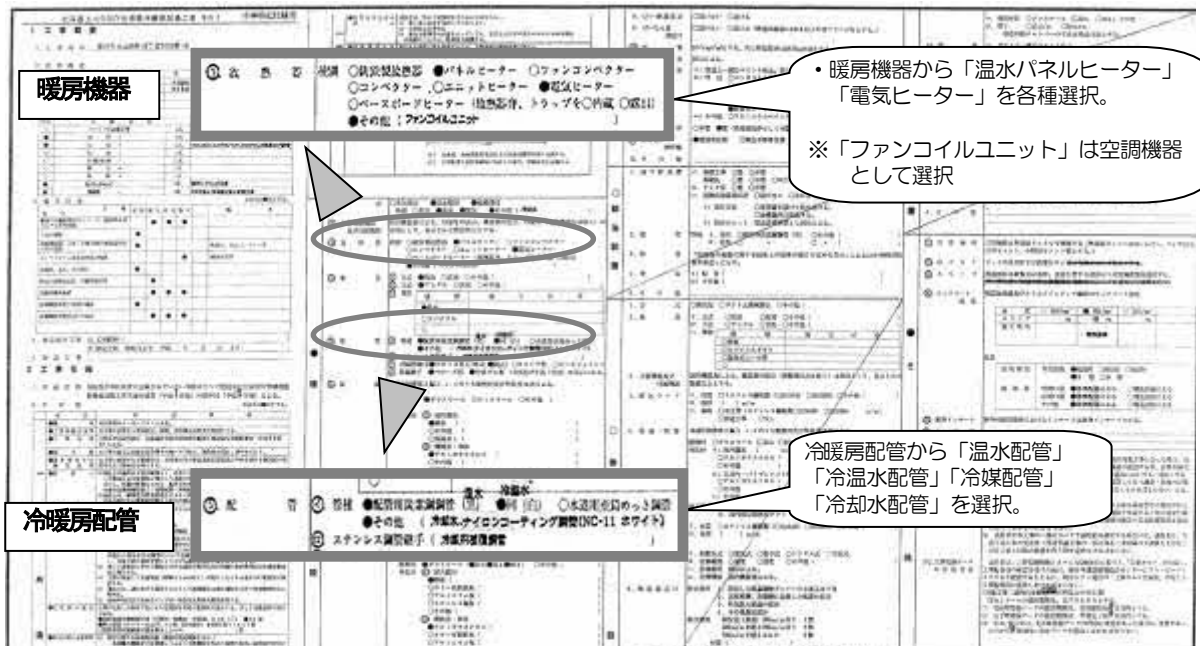
■機器一覧表（冷暖房）（図B） ～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。

The screenshot shows a software interface for managing HVAC equipment. A callout box labeled '冷暖房熱源付属機器' points to a table. Within this table, a row for '冷温水ヘッダー' (Cold/Hot Water Header) is highlighted, with a callout stating '冷暖房熱源付属機器より「ヘッダー類」を選択' (Select 'Header' type from HVAC heat source equipment). Another callout points to a row for 'オイルタンク' (Oil Tank), stating '冷暖房熱源付属機器より「地下オイルタンク」を選択し、オイルタンク容量を記入' (Select 'Underground Oil Tank' type from HVAC heat source equipment and enter the oil tank capacity). A third callout points to the overall table, labeled '機器一覧表（冷暖房）' (HVAC Equipment List).

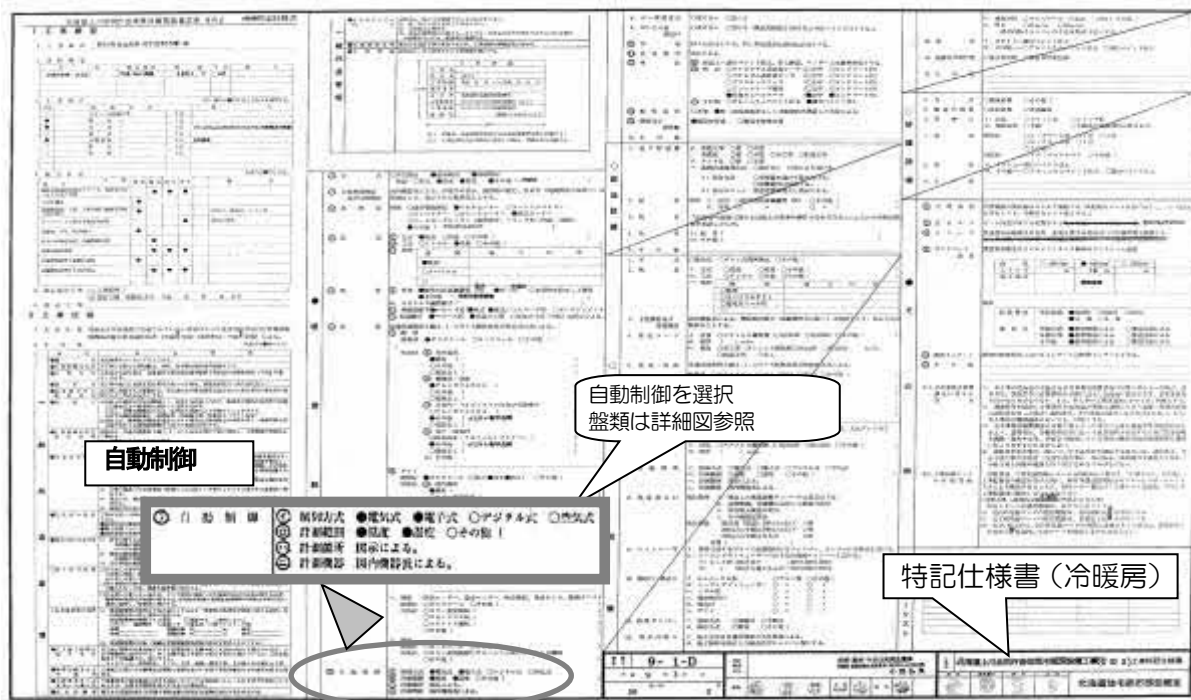
■機器一覧表（空調）（図C） ～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。

The screenshot shows a software interface for managing HVAC equipment. A callout box labeled '空調機器' (HVAC Equipment) points to a table. Within this table, a row for '空気調和機' (Air Conditioning Unit) is highlighted, with a callout stating '空調機器より「ユニット形空調機」を選択' (Select 'Unit type air conditioning unit' from HVAC equipment). Another callout points to a row for 'ユニットエアハン' (Unit Air Handler), stating '空調機器より「ユニット形空調機」を選択' (Select 'Unit type air conditioning unit' from HVAC equipment). A third callout points to the overall table, labeled '機器一覧表（空調）' (HVAC Equipment List).

■特記仕様書（冷暖房）（図D）～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。



■特記仕様書（冷暖房）（図E）



■ 機器一覧表（空調）（図F）～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。

換気

排風機

換気機器の項目として、「送排風機」を選択

■ 機器一覧表（空調）（図G）

排煙

排煙機

排煙機器の「機械排煙ファン」を選択

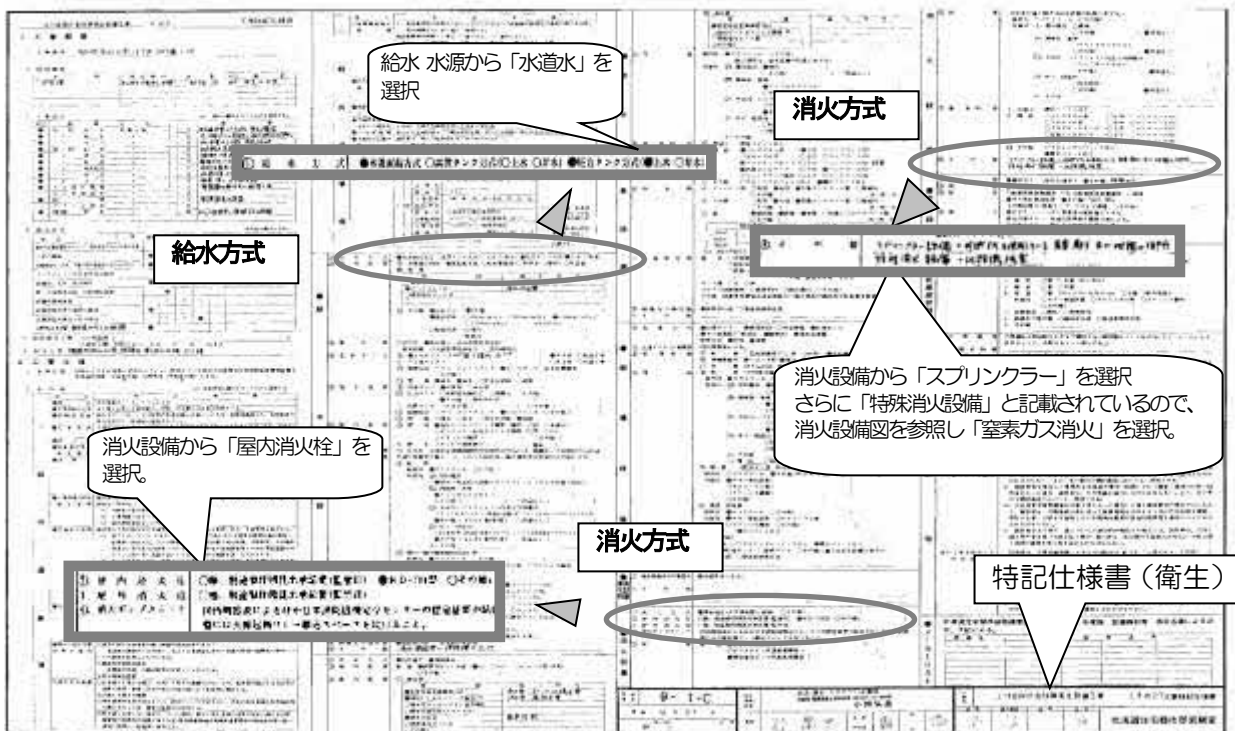
換気

空調換気扇

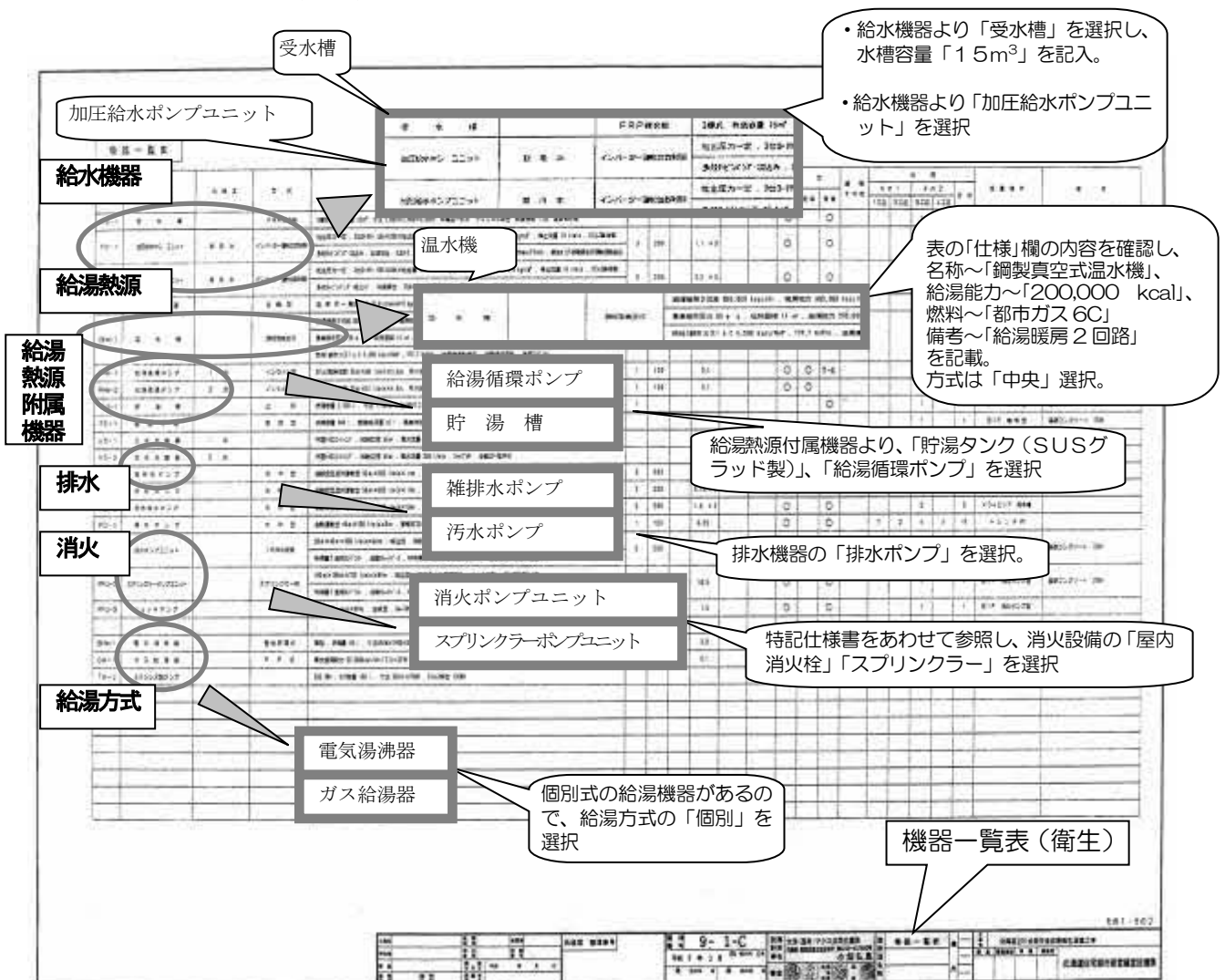
換気機器の項目として、「熱交換型換気扇」を選択

機器一覧表（空調）

■特記仕様書（衛生）（図H）～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。



■機器一覧表（衛生）（図I）～ 建物の規模により、複数枚となる場合があります。



オ 別紙3-5 屋外工作物概要

本書式は、屋外工作物についての概要を整理するためのものです。

施設コード、施設名称は、別紙3-1と同じに記載します。

屋外工作物は、「土留」、「雨水排水設備」、「路面処理」、「管理施設」、「サービス施設」、「グラウンド・コート」及び「敷地外施設」などの分類になっています。

土木工事または屋外付帯工事の完成図を参照して、必要項目を記入(選択)できますが、「財産引継書」の付属図面、同目録から記載する方が容易です。

| 記入項目 | 記入方法等 |
|----------------|--|
| ○土留 ①擁壁 | 構造別で記載します。 鉄筋コンクリート、無筋コンクリート、コンクリートブロック(間地石)、自然石など 注) PC造(プレキャストコンクリート造)及びPS造(プレストレスコンクリート造)は鉄筋コンクリート造で記載します。 ※形状別では重力式、逆T型、L型、控え壁型、石積み型などがあります。 |
| ○雨水排水設備 ①側溝 | 側溝欄には、函渠式、U型、皿型、円形、L型、V字側溝の型式を記載します。 蓋の有無別に記載するのは、維持管理上のチェック漏れを防ぐためです。 |
| ②暗渠管 | 暗渠管は、地下に埋設されている排水管です。 PC管、RC管、塩化ビニール管の該当形式と管径と長さを記載します。 径の違う排水管が多くある場合は、同一型式ごとに径欄で250~450mmと合算して記載します。 |
| ③枿 | 枿は種類別の数量を記載します。 浸透枿は維持管理上見落としやすいことに注意してください。 地下水排水設備は、建物内に設置したものではなく、敷地内に設置した地下水、湧水の集水排水設備(ポンプ等)を指します。 |
| ○路面処理 ①舗装 | 舗装の種類は、次から選択し、表装材の厚さを記載してください。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「アスファルト舗装」、「コンクリート舗装」、「インターロッキング舗装」、「コンクリートブロック舗装」、「レンガ舗装」、「木系舗装」、「樹脂舗装」、「点字ブロック」 </div> |
| ②縁石 | 構造、高さ、長さを記載してください。 |
| ③階段 | 建物使用のためとは関係なく地盤に直接設置されているものを指し、斜路も含まれます。 |

| | |
|------------------------------|---|
| ○管理施設 ①門・扉・柵 | 構造は、鉄筋コンクリート造、無筋コンクリート造、コンクリートブロック造、石造、レンガ造、土造、生垣、金属造、木造を記載してください。 |
| ②安全施設 | 付属図面等から、該当するものを全て選択してください。 |
| ③特殊設備 | 付属図面等から、該当するものを全て選択してください。 |
| ○サービス施設 | 付属図面等から、該当するものを全て選択してください。 |
| ○グラウンド・コート ①野球・テニス | 付属図面等から、該当するものを全て選択してください。 |
| ②柵 | バックネット、防球ネット、高尺ネットフェンス及びネットフェンスの内、該当するものについて、構造、長さ、高さを記入してください。 また、夜間用照明設備、散水設備について、該当するものを全て選択してください。 |
| ○敷地外施設 | <p>敷地外施設とは、敷地内の施設を機能させるために必要なもので、敷地外（私有、公有を問わず、道教委の管理権限外の土地）に存在し、施設管理者が管理責任を有しているものを指します。</p> <p>このような施設はまれにしかありませんが、例えば、下水道処理施設区域外に建設された施設で排水先・放流先が遠いため、そこまで排水管を埋設延長している場合や、道教委の施設がTV電波受信障害を起こしたため、障害を受けた建物に対し有線による対策措置を行った場合などがあります。</p> <p>敷地外施設の設置（埋設）に際しては、極力、道路等の公有地に設置していますが、地形などから、私有地内に設置している場合もあります。</p> <p>いずれの場合も、土地使用上の承認手続きを行ったうえで設置していますので、該当するものについて選択又は記入してください。</p> <p>なお、承諾は期間を定めていますが、異議が無ければ自動更新としているケースが殆どですので、管理責任を有している施設があることに気づかず、管理点検を怠ってしまうケースもあります。</p> <p>これらの敷地外施設の土地使用や設置維持関係の書類（承諾書、協定書等）は、取扱通知別紙2の「保存すべき書類」として施設管理者に引き継がれていますので、常時確認ができるような保管をしておきましょう。</p> |

(記載例)

別紙3-5 屋外工作物概要

| | | | |
|-----|-----------|--------|--|
| 作成日 | 平成〇〇年〇月〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理者記入不要

| | |
|-------|------------|
| 施設コード | △△××〇〇□□□□ |
| 施設名称 | △△高等学校校舎 |

| 区分 | | 部材及び仕様等 (該当する項目は、○印を塗りつぶして●印にする。または名称、構造、寸法等を記入する。) | | | | 備考 | |
|------------------|--|--|--------------------------|---------------------------------|-----------|---------|---------|
| 中分類 | 小分類 | 構造 | | 高さ(m) | 長さ(m) | | |
| 土留 | 擁壁 | 鉄筋コンクリート造 | | 2.0 | 15.2 | | |
| | | 間地石構造 | | 1.2 | 2.5 | | |
| 雨水排水設備 | 側溝 | 形式(蓋・グレーチング有り) 長さ(m) | | 形式(蓋・グレーチング無し) 長さ(m) | | | |
| | | U型側溝 | | 64.0 | | 皿型側溝 | 18.0 |
| | 暗渠管 | 形式 径(mm) 長さ(m) | | 形式 径(mm) 長さ(m) | | | |
| | | PC管 | 450 | 12.0 | 塩化ビニール管 | 250 | 45.5 |
| 柵 | ● 雨水柵 (5 個) ○ 浸透柵 (個) | | ○ 貯留施設 | | | | |
| 路面処理 | 舗装 | 舗装種類 厚さ(mm) 面積(m ²) | | 舗装種類 厚さ(mm) 面積(m ²) | | | |
| | | アスファルト | 40 | 181.1 | インターロッキング | 50 | 60.0 |
| | 縁石 | 構造 高さ(cm) 長さ(m) | | 構造 高さ(cm) 長さ(m) | | | |
| | | 鉄筋コンクリート造 | 120 | 54.8 | 鉄筋コンクリート造 | 250 | 18.0 |
| 階段 | 長さ(m) | | 長さ(m) | | | | |
| 管理施設 | 門・扉・柵 | 構造 高さ(m) 長さ(m) | | 構造 高さ(m) 長さ(m) | | | |
| | | 鉄筋コンクリート造 | 2.0 | 2.0 | 金属製 | 1.5 | 280.0 |
| | 安全施設 | 生垣 | 1.2 | 12.0 | | | |
| | | ● 車止め ● 手すり ● 施設名板 | | ● 敷地内外灯 (3 基) | | | |
| 特殊設備 | ● 設備用トレンチ ○ その他 | | ○ 特殊管路 ● 掲揚ポール (H= 10 m) | | | | |
| サービス施設 | 修景施設 | ● モニュメント ○ 池(構造) ○ 石組 | | | | 計画対象外 | |
| | 遊具 | ○ 遊具 ○ 砂場 ● 花壇 | | | | | |
| グラウンド・コート | サービス施設 | ○ 時計台 ● 水飲み場 ● ベンチ・テーブル | | | | 計画対象外 | |
| | | ○ 野外炉 ○ 掲示板 ○ 標識 | | | | | |
| | 野球 | ● ダッグアウト ● スコアボード ● 競技用砂場 | | | | 計画対象外 | |
| | | ● ファールポール ● ポスト ● ゴールポスト | | | | | |
| テニス | ● 支持台 ● スポーツサークル ● 踏切板 | | | | 計画対象外 | | |
| | ● ピッチャプレート ● ホームベース ● 塁ベース | | | | | | |
| 柵 | ● ネットポスト ● センターガイド ● ラインマーク | | | | 計画対象外 | | |
| | 名称 | 構造 | 高さ(m) | 長さ(m) | | 名称 | 構造 |
| バックネット | 金属製 | 10.0 | 24.0 | 高尺ネットフェンス | 金属製 | 12.0 | 22.0 |
| 防球ネット | 金属製 | 10.0 | 16.0 | ネットフェンス | 金属製 | 6~10 | 42.0 |
| ● 夜間用照明設備 ● 散水設備 | | | | | | | |
| 敷地外施設 | 雨水排水 | ○ 雨水用側溝 ○ 雨水管接続柵 (個) | | ○ 雨水用暗渠管 | | | |
| | | ○ 汚水最終放流: (△△市公共下水道) | | | | | |
| | 汚水排水 | ● 汚水管接続柵 (10 個) ● 汚水管用点検柵 (2 個) | | | | | |
| | | 汚水管理設場所 | 敷地権利者 | 構造 | 径(mm) | 長さ(m) | 次回権利更新日 |
| △△市道3号線歩道 | △△市 | PC管 | 600 | 120.0 | H23.10 | | |
| △△市道6号線歩道 | △△市 | PC管 | 600 | 200.0 | H23.10 | | |
| 通路 | ○ 車道 ○ 歩道 ● 点字ブロック | | | | | | |
| | ● 敷地内外灯 (2 基) ● 標識 ● 案内板 | | | | | | |
| TV電波受信障害対策施設 | ● 敷地外設置アンテナ (1 基) ● 敷地外設置ポール (2 基) ● 中継増幅器 | | | | | | |
| | 配線方式 ● 架空 ○ 地下埋設) | | | | | | |
| | ポール設置場所 | 敷地権利者 | 構造 | 径(mm) | 高さ(m) | 次回権利更新日 | |
| | △△市中央1-2-3 | 山 △夫 | コンクリート製 | 450 | 14.0 | H23.10 | |
| △△市中央1-2-4 | ×川 ○子 | 金属製 | 300 | 8.0 | H23.10 | | |
| 電波障害対策住宅 | 棟数 | 戸数 | 棟数 | 戸数 | | | |
| ● アナログ放送 | 12 | 26 | ○ デジタル放送 | | | | |

※2011年7月までで終了

計画対象外

カ 別紙3-6 修繕工事・改修工事の記録

本書式は、実施した修繕工事や改修工事について記録をしておく様式です。この記録は長期保全計画の作成や劣化状況の調査など、保全業務のために必要となる重要な事項です。

- 作成方法
修繕あるいは改修工事の完了後速やかに、別紙3-6の様式により、建物ごとに別様として作成してください。
- 記載対象
記載の対象となる工事は、修繕工事（損耗、劣化及び破損又は故障により損なわれた機能を回復させる工事）と改修工事（改良及び模様替え並びに建築設備及び建築物の附帯施設等更新）です。消耗品の取替えなどの保守や軽微な作業については除きます。
- その他
完成図や取扱説明書等の工事関係書類は、新築、改築のみならず、修繕工事や改修工事についても、保全業務のために重要な資料となりますので、適切に保管してください。

| 記入項目 | 記入方法等 |
|----------------------------------|---|
| ①施設コード ②施設名 ③建物コード ④建物名 | 「イ 別紙3-2 建築概要」を基に記入してください。 |
| ⑤No. | 工事ごとに整理し、任意に番号を付けてください。 |
| ⑥契約年月日 | 工事契約をした期日を記入してください。 |
| ⑦工事種別 | 工事の種別を把握する項目です。建築、電気、機械、搬送、屋外工作物の区分を記載し、合併工事の場合は該当する区分を全て記載します。 |
| ⑧工事名 | 契約に基づく名称を記入します。 |
| ⑨請負業者名 | 契約の相手方を記入します。 |
| ⑩工期 | 契約書等による着工の日と実際に工事が完了した日を記入します。 |
| ⑪契約金額（最終） | 工事が完成した時点での最終の工事金額を記入します。 |
| ⑫工事内容 | 工事対象の部材、機器についての名称と工事の場所及び修繕又は改修の内容を記入します。 |
| ⑬公有財産台帳との関連 | 増減欄の搭載並びに沿革・備考欄整理書の記入を要するものであるかどうかを判断し、該当するものを選択してください。 新築、増築、移築、改築等に関する工事を実施した場合には、公有財産台帳整理基準（最終改正平成10年10月15日管財第851号）により、公有財産台帳の増減欄に搭載する必要があります。 台帳登録後に大修繕又は模様替え（建物主要構造部の修繕又は模様替えで、当該建物の耐用年数に影響を与える程度規模のもの）を実施した場合には、公有財産台帳の沿革・備考欄整理書に記入する必要があります。 |

(記載例)

別紙3-6 修繕工事・改修工事の記録

| | | | |
|-------|-------------|-----|------------|
| 施設コード | △△××□□□□ | 施設名 | △△高等学校 |
| 建物コード | △△××□□□□001 | 建物名 | 学校校舎(教室棟1) |

| No. | 工事種別 | 契約年月日 | 工事名 | 請負業者名 | 工期(着工) | 工期(完成) | 契約金額(最終) | 工事内容 | 公有財産台帳との関連 | | 備考 |
|-----|------|----------|----------------|---------|----------|-----------|------------|-----------------------|------------|--------------|----|
| | | | | | | | | | 増減機の登録 | 沿革・備考欄整理書の記入 | |
| 1 | 機械設備 | H18.4.27 | △△高等学校3F便所修繕工事 | □□設備備 | H18.4.28 | H18.5.30 | 2,000,000 | 3F便所の漏水による修繕 | ○要 ●不要 | ●要 ○不要 | |
| 2 | 建築 | H18.4.27 | ▲▲高校生徒玄関屋根修繕工事 | 機○○建設 | H18.4.28 | H18.7.30 | 6,300,000 | 生徒玄関屋根の腐食に伴う修繕 | ○要 ●不要 | ●要 ○不要 | |
| 3 | 建築 | H18.5.31 | △△高校防水改修等工事 | 機××工務店 | H18.6.1 | H18.12.10 | 26,985,000 | 教室棟1の屋上防水の全面改修 | ○要 ●不要 | ●要 ○不要 | |
| 4 | 電気設備 | H18.7.20 | △△高校電気設備増設工事 | 機▲▲電気工業 | H18.7.28 | H18.8.28 | 220,000 | 科学教室設備の増設に伴う電気回路の増設ほか | ●要 ○不要 | ●要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |
| | | | | | | | | | ○要 ○不要 | ○要 ○不要 | |

(記載対象工事) ・修繕工事：損耗、劣化及び破損又は故障により損なわれた機能を回復させる工事
 ・改修工事：改良及び模様替え並びに建築設備及び建築物の附帯施設等の更新
 なお、保守(消耗品や材料の取り替え、注油、汚れ等の除去及び部品の調整等などの軽微な作業)については除く。

キ 別紙3-公宅 公宅概要の解説

| 共通事項 | 完成図面、現地から仕様を確認のうえ作成してください。なお、設備機器については入居者個人が設置したものは対象になりません。 また、標準的な仕様を元に作成しているものであるため、これ以外の仕様場合があります。 | | | |
|------|--|--|--|--|
| 大分類 | 小分類 | 解 説 | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 | 主に「アスファルト防水」が使用されており、コンクリートが敷いてある場合は「押えコンクリート有り」、ない場合は「無し」とする。 | |
| | | 傾斜屋根 | 主に「金属屋根（長尺カラー鉄板）」が使用されている。 | |
| | 外壁 | 主に「吹付塗装」が使用されており、おおむねH7以前は「リシン（砂状の仕上げのもの）」、それ以降は「吹付タイル（つやのある凸凹仕上げのもの）」としている。 | | |
| | 内窓 | おおむねS61以前は「木製サッシ」、それ以降は「樹脂サッシ」が設置されている。また、改修により「樹脂サッシ」に取替えている場合がある。 | | |
| | 避難 | 「バルコニー」がある場合、「避難タラップ」がある場合は、それぞれ選択する。 | | |
| 電 気 | TV共視聴 | 「VHF」・「UHF」を選択する。H13以降は「BS」も設置されている場合がある。 | | |
| | 防災 | 「自動火災報知器」は、設置されていない場合が多いが、H19以降、改修により設置されている。内階段型の場合、共用階段に「非常照明」が設置されている。 | | |
| 機 械 | 暖房 | 「FFストーブ用スリーブ穴」、「灯油タンク」とともに、おおむねH4以降から設置されている。 | | |
| | 換気 | 台所 | おおむねH5以降は「レンジフード」、それ以前は「壁換気扇」が設置されている。 | |
| | | 居住室 | 居室（居間、洋室、和室）、洗面所、便所、浴室のそれぞれについて、「換気扇」又は「換気口」を選択する。 また、H13以降「熱交換型集中換気設備」が玄関ホールの天井裏に設置されている場合がある。 | |
| | 給湯方式 | 給湯器 | おおむねH4以降、集中型給湯器が設置されている。また、改修工事により設置されている場合もある。 熱源は主に「ガス」が使用されている。 給湯能力は図面又は本体に記載されている号数を記入する。 給排気タイプで、「FF」は屋外に強制給排気を行っているもの、「FR」は排気を屋外に、給気は室内から行っているもの、「RR」は給排気ともに室内から行っているものをいう。 「設置住戸」には、給湯器が設置されている住戸番号を記入する。全住戸に設置されている場合は「全住戸」と記入する。 | |
| | | 風呂釜 | 風呂釜は主に「ガス」が熱源となっている。また、シャワー設置の有無について選択する。 「設置住戸」には風呂釜を使用している住戸番号を記入する。 なお、風呂釜はあっても上記給湯器を改修工事で設置したことにより使用していない住戸は除く。 | |
| | | ユニットバス | 浴室がユニットバス化されている場合に選択する。 | |
| | 水道 | 主に直圧式だが、3階建て以上は受水槽が設置されている場合がある。 水道メーターは市町村から購入または借受し、借受の場合、有償または無償となる。遠隔検針盤は、共用玄関に各住戸のメーターの数値を一度に見られる盤が設置されている場合に選択する。 | | |
| トイレ | 「下水道」、「汲み取り」、「浄化槽」のいずれかを選択する。浄化槽で、全ての排水を浄化槽で処理している場合は「合併浄化槽」、便所の排水のみの場合は「単独浄化槽」を選択する。なお、単独浄化槽は法改正によりH13以降設置不可となっている。 | | | |

(記載例1)

別紙3-公宅 公宅概要

| | | | |
|-----|-------------|--------|--|
| 作成日 | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇 〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理費記入不要

| 区分 | データ | | 備考 |
|--------------------|----------------------|-----------|-------------|
| 建物コード | | | |
| 公宅名称 | 〇〇高等学校〇〇号公宅 | | |
| 建築年 | ●昭和 | 〇平成 62 年 | |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 38 年 (2025 年まで) | | |
| 型式 | ●BC OPC ORC OW | 20 型 | 物置 (構造〇〇) |
| 階数・戸数 | 地上 1 階 | 1 戸 | 〇OrfX (物置数) |
| 棟形式 | ●平屋 | 〇内階段 〇外階段 | |
| 専有面積 | 68.04 m ² | | |

| 区分 | 部材・仕様 | | 備考 | | |
|-----|---|--|--|--------------------------|--|
| 大分類 | 小分類 | (該当する項目の〇印に塗りつぶして●印にする。) | | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 〇アスファルト防水 (〇押えコンクリート) 〇その他 () | | | |
| | | 傾斜屋根 ●金属屋根 (長尺切鉄板) 〇その他 () | | | |
| | 外壁 | ●吹付塗装 (●リシン 〇吹付タイル) 〇金属系外装材 〇その他 () | | | |
| | 内窓 | 〇木製サッシ ●樹脂サッシ 〇その他 () | | | |
| | 避難 | 〇バルコニー (〇避難タラップ) | | | |
| 電 気 | TV視聴機 | ●VHF ●UHF OBS 〇その他 () | 個人設置は対象外 | | |
| | 防災 | 〇自動火災報知器 (感知器) 〇非常照明 (共用階段) | | | |
| 機 械 | 暖房 | OFFストーブ用スリーブ 〇灯油タンク | 個人設置は対象外 | | |
| | 換 気 | 台 所 | 〇レンジフード ●壁換気扇 | | |
| | | 居室 | 居 室 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) ●換気口 | |
| | | | 洗面所 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) 〇換気口 | |
| | | | 便 所 | 〇換気扇 ●換気口 | |
| | | | 浴 室 | 〇換気扇 ●換気口 | |
| | | | 〇熱交換型集中換気設備 | | |
| | 給 湯 | | 〇給湯器 熱源 (〇ガス 〇灯油) 給湯能力 <input type="text"/> 号 給湯方式 〇個別給湯 設置室 () 〇集中給湯 設置室 () 給湯箇所 (〇台所 〇浴室 〇洗面) 給排気タイプ (OFF OFR ORR) 設置住戸 () | 個人設置は対象外 | |
| | | | ●風呂釜 設置住戸 (全住戸) 熱源 (●ガス 〇灯油) シャワー (●有り 〇無し) | | |
| | | | 〇ユニットバス | | |
| 水 道 | ●直圧式 〇受水槽 (水槽総容量 <input type="text"/> m ³) 水道メーター (●購入 〇借受 (〇有償 〇無償)) 〇遠隔検針盤 | | | | |
| トイレ | ●下水道 〇汲み取り 〇浄化槽 (〇合併浄化槽 〇単独浄化槽) | | | | |

(記載例2)

別紙3-公宅 公宅概要

| | | | |
|-----|-------------|--------|--|
| 作成日 | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇 〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理者記入不要

| 区分 | データ | | 備考 |
|--------------------|----------------------|---------|-------------|
| 建物コード | | | |
| 公宅名称 | 〇〇高等学校〇〇号公宅 | | |
| 建築年 | 〇昭和 | ●平成 5 年 | |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 47 年 (2040 年まで) | | |
| 型式 | 〇BC ●PC 〇RC 〇W | 21 型 | 物置 (構造〇〇) |
| 階数・戸数 | 地上 1 階 | 4 戸 | 〇OrfX (物置数) |
| 棟形式 | 〇平屋 ●内階段 〇外階段 | | |
| 専有面積 | 65.73 m ² | | |

| 区分 | | 部材・仕様 (該当する項目の〇印に塗りつぶして●印にする。) | | 備考 | |
|---|--|--|-------------------------------------|--------------------------|--|
| 大分類 | 小分類 | | | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 | 〇アスファルト防水 (〇押えコンクリート) 〇その他 () | | |
| | | 傾斜屋根 | ●金属屋根 (長尺加鉄板) 〇その他 () | | |
| | 外壁 | ●吹付塗装 (●リシン 〇吹付タイル) 〇金属系外装材 〇その他 () | | | |
| | 内窓 | 〇木製サッシ ●樹脂サッシ 〇その他 () | | | |
| | 避難 | ●バルコニー (〇避難タラップ) | | | |
| 電 気 | TV共視聴 | ●VHF ●UHF 〇BS 〇その他 () | | 個人設置は対象外 | |
| | 防災 | 〇自動火災報知器 (感知器) ●非常照明 (共用階段) | | | |
| 機 械 | 暖房 | ●FFストーブ用スリーブ ●灯油タンク | | 個人設置は対象外 | |
| | 換気 | 台 所 | ●レンジフード 〇壁換気扇 | | |
| | | 居住室 | 居 室 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) ●換気口 | |
| | | | 洗面所 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) 〇換気口 | |
| | | | 便 所 | 〇換気扇 ●換気口 | |
| | | | 浴 室 | ●換気扇 〇換気口 | |
| | | | 〇熱交換型集中換気設備 | | |
| | 給湯 | ●給湯器 熱源 (●ガス 〇灯油) 給湯能力 16 号 | | 個人設置は対象外 | |
| | | 給湯方式 〇個別給湯 設置室 () ●集中給湯 設置室 (台所) 給湯箇所 (●台所 ●浴室 〇洗面) | | | |
| | | 給排気タイプ (●FF OFR ORR) 設置住戸 (全住戸) | | | |
| 〇風呂釜 設置住戸 () 熱源 (〇ガス 〇灯油) シャワー (〇有り 〇無し) 〇ユニットバス | | | | | |
| 水道 | ●直圧式 〇受水槽 (水槽総容量 m ³) 水道メーター (〇購入 ●借受 (●有償 〇無償)) 〇遠隔検針盤 | | | | |
| トイレ | ●下水道 〇汲み取り 〇浄化槽 (〇合併浄化槽 〇単独浄化槽) | | | | |

(記載例3)

別紙3-公宅 公宅概要

| | | | |
|-----|-------------|--------|--|
| 作成日 | 平成00年00月00日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 00 00 | ※入力日 | |

※施設管理書記入不要

| 区分 | データ | | 備考 |
|--------------------|----------------------|---------|------------|
| 建物コード | | | |
| 公宅名称 | 00高等学校00号公宅 | | |
| 建築年 | ○昭和 | ●平成 8 年 | |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 47 年 (2043 年まで) | | |
| 型式 | ○BC ○PC ●RC ○W | 22 型 | 物置(構造00) |
| 階数・戸数 | 地上 1 階 | 16 戸 | 00Orx(物置数) |
| 棟形式 | ○平屋 ●内階段 ○外階段 | | |
| 専有面積 | 72.59 m ² | | |

| 区分 | | 部材・仕様 | | 備考 | |
|-----|---|---|-------------------------------------|----------|--------------------------|
| 大分類 | 小分類 | (該当する項目の○印に塗りつぶして●印にする。) | | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 | ●アスファルト防水 (●押えコンクリート) ○その他 () | | |
| | | 傾斜屋根 | ○金属屋根 () ○その他 () | | |
| | 外壁 | ●吹付塗装 (○リシン ●吹付タイル) ○金属系外装材 ○その他 () | | | |
| | 内窓 | ○木製サッシ ●樹脂サッシ ○その他 () | | | |
| | 避難 | ●バルコニー (●避難タラップ) | | | |
| 電 気 | TV視聴機 | ●VHF ●UHF ●BS ○その他 () | | 個人設置は対象外 | |
| | 防災 | ○自動火災報知器(感知器) ●非常照明(共用階段) | | | |
| 機 械 | 暖房 | ●FFストーブ用スリーブ ●灯油タンク | | 個人設置は対象外 | |
| | 換気 | 台 所 | ●レンジフード ○壁換気扇 | | |
| | | 居室 | 居 室 | | ○換気扇 (○一般型 ○熱交換型) ●換気口 |
| | | | 洗面所 | | ○換気扇 (○一般型 ○熱交換型) ●換気口 |
| | | | 便 所 | | ●換気扇 ○換気口 |
| | | | 浴 室 | | ●換気扇 ○換気口 |
| | | ○熱交換型集中換気設備 | | | |
| 給湯 | ●給湯器 熱源 (●ガス ○灯油) 給湯能力 16 号 給湯方式 ○個別給湯 設置室 () ●集中給湯 設置室 (洗面所) 給湯箇所 (●台所 ●浴室 ●洗面) 給排気タイプ (●FF OFR ORR) 設置住戸 (全住戸) ○風呂釜 設置住戸 () 熱源 (○ガス ○灯油) シャワー (○有り ○無し) ●ユニットバス | | 個人設置は対象外 | | |
| 水道 | ○直圧式 ●受水槽 (水槽総容量 7.5 m ³) 水道メーター (○購入 ●借受 (●有償 ○無償)) ○遠隔検針盤 | | | | |
| トイレ | ●下水道 ○汲み取り ○浄化槽 (○合併浄化槽 ○単独浄化槽) | | | | |

(記載例4)

別紙3-公宅 公宅概要

| | | | |
|-----|-------------|--------|--|
| 作成日 | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇 〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理書記入不要

| 区分 | データ | | 備考 |
|--------------------|----------------------|-----------|------------|
| 建物コード | | | |
| 公宅名称 | 〇〇高等学校〇〇号公宅 | | |
| 建築年 | 〇昭和 | ●平成 11 年 | |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 38 年 (2037 年まで) | | |
| 型式 | ●BC OPC ORC OW | 23 型 | 物置(構造〇〇) |
| 階数・戸数 | 地上 1 階 | 4 戸 | 〇OrfX(物置数) |
| 棟形式 | 〇平屋 | ●内階段 〇外階段 | |
| 専有面積 | 72.17 m ² | | |

| 区分 | 部材・仕様 | | 備考 | | |
|----------------------|------------------------------------|---|---------------|--------------------------|--|
| 大分類 | 小分類 | (該当する項目の〇印に塗りつぶして●印にする。) | | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 ●アスファルト防水 (●押えコンクリート) 〇その他 () | | | |
| | | 傾斜屋根 〇金属屋根 () 〇その他 () | | | |
| | 外壁 | ●吹付塗装 (〇リシン ●吹付タイル) 〇金属系外装材 〇その他 () | | | |
| | 内窓 | 〇木製サッシ ●樹脂サッシ 〇その他 () | | | |
| 電気 | TV共視聴 | ●VHF ●UHF OBS 〇その他 () | 個人設置は対象外 | | |
| | 防災 | 〇自動火災報知器(感知器) ●非常照明(共用階段) | | | |
| 機 械 | 暖房 | ●FFストーブ用スリーブ ●灯油タンク | 個人設置は対象外 | | |
| | 換気 | 台 所 | ●レンジフード 〇壁換気扇 | | |
| | | 居室 | 居 室 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) ●換気口 | |
| | | | 洗面所 | 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) 〇換気口 | |
| | | | 便 所 | 〇換気扇 ●換気口 | |
| | | | 浴 室 | ●換気扇 〇換気口 | |
| | | | 〇熱交換型集中換気設備 | | |
| | 給湯 | ●給湯器 熱源 (●ガス 〇灯油) 給湯能力 16 号 | | 個人設置は対象外 | |
| | | 給湯方式 〇個別給湯 設置室 () | | | |
| | | ●集中給湯 設置室 (台所) | | | |
| 給湯箇所 (●台所 ●浴室 ●洗面) | | | | | |
| | 給排気タイプ (●FF OFR OFR) | | | | |
| | 設置住戸 (全住戸) | | | | |
| | 〇風呂釜 設置住戸 () | | | | |
| | 熱源 (〇ガス 〇灯油) シャワー (〇有り 〇無し) | | | | |
| | 〇ユニットバス | | | | |
| 水道 | ●直圧式 〇受水槽 (水槽総容量 m ³) | | | | |
| | 水道メーター (●購入 〇借受 (〇有償 〇無償)) | | | | |
| | 〇遠隔検針盤 | | | | |
| トイレ | ●下水道 〇汲み取り | | | | |
| | 〇浄化槽 (〇合併浄化槽 〇単独浄化槽) | | | | |

(記載例5)

別紙3-公宅 公宅概要

| | | | |
|-----|-------------|--------|--|
| 作成日 | 平成〇〇年〇〇月〇〇日 | ※チェック者 | |
| 作成者 | 主任 〇〇 〇〇 | ※入力日 | |

※施設管理者記入不要

| 区分 | データ | | 備考 |
|--------------------|---------------|-----------------|-------------|
| 建物コード | | | |
| 公宅名称 | 〇〇高等学校〇〇号公宅 | | |
| 建築年 | 〇昭和 | ●平成 14 年 | |
| 使用予定年数 (法定耐用年数) | 47 | 年 (2049 年まで) | |
| 型式 | 〇BC | ●PC ORC OW 22 型 | 物置 (構造〇〇) |
| 階数・戸数 | 地上 1 | 階 2 戸 | 〇OrtX (物置数) |
| 棟形式 | 〇平屋 ●内階段 〇外階段 | | |
| 専有面積 | 72.01 | ㎡ | |

| 区分 | 部材・仕様 | | 備考 | |
|-----|--|---|------------------------------|--|
| 大分類 | 小分類 | (該当する項目の〇印に塗りつぶして●印にする。) | | |
| 建 築 | 屋根 | 陸屋根 ●アスファルト防水 (●押えコンクリート) 〇その他 () | | |
| | | 傾斜屋根 〇金属屋根 () 〇その他 () | | |
| | 外壁 | ●吹付塗装 (〇リシン ●吹付タイル) 〇金属系外装材 〇その他 () | | |
| | | 内窓 〇木製サッシ ●樹脂サッシ 〇その他 () | | |
| 避難 | ●バルコニー (〇避難タラップ) | | | |
| 電 気 | TV共視機 | ●VHF ●UHF ●BS 〇その他 () | 個人設置は対象外 | |
| | 防災 | 〇自動火災報知器 (感知器) ●非常照明 (共用階段) | | |
| 機 械 | 暖房 | ●FFストーブ用スリーブ ●灯油タンク | 個人設置は対象外 | |
| | 換気 | 台 所 ●レンジフード 〇壁換気扇 | | |
| | | 居住室 | 居 室 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) ●換気口 | |
| | | | 洗面所 〇換気扇 (〇一般型 〇熱交換型) ●換気口 | |
| | | | 便 所 〇換気扇 ●換気口 | |
| | | | 浴 室 ●換気扇 〇換気口 | |
| | 〇熱交換型集中換気設備 | | | |
| | 給湯 | ●給湯器 熱源 (●ガス 〇灯油) 給湯能力 20 号 | 個人設置は対象外 | |
| | | 給湯方式 〇個別給湯 設置室 () ●集中給湯 設置室 (台所) 給湯箇所 (●台所 ●浴室 ●洗面) | | |
| | | 給排気タイプ (●FF OFR ORR) 設置住戸 (全住戸) | | |
| 水道 | 〇風呂釜 設置住戸 () 熱源 (〇ガス 〇灯油) シャワー (〇有り 〇無し) | | | |
| | ●ユニットバス | | | |
| 水道 | ●直圧式 〇受水槽 (水槽総容量 m3) 水道メーター (●購入 〇借受 (〇有償 〇無償)) 〇遠隔検針盤 | | | |
| トイレ | ●下水道 〇汲み取り 〇浄化槽 (〇合併浄化槽 〇単独浄化槽) | | | |